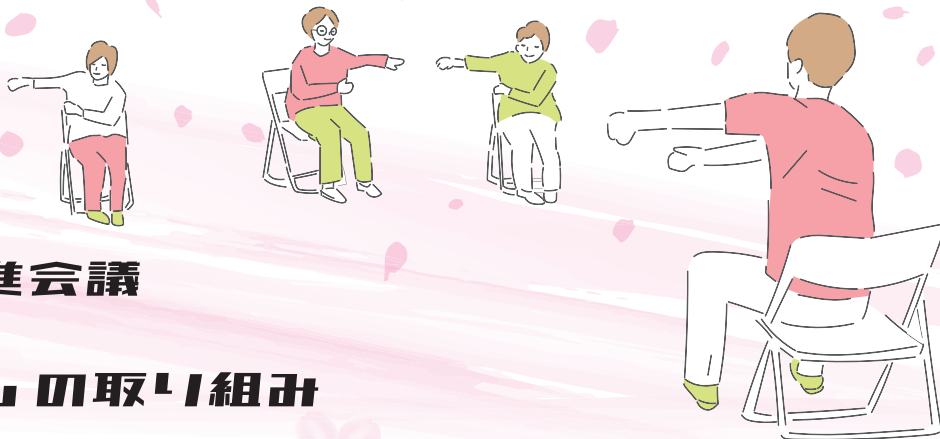


「つながるスイーツ」!!

久留米市社会福祉協議会



vol.6

支え合い推進会議

— その④ —

「東国分校区」の取り組み

支え合い推進会議の様子を紹介していくシリーズ第4弾。今回は、「東国分校区」をご紹介します。

・東国分校区支え合い推進会議
会長 堀江範子さん

・谷北自治会長
草場泰雄さん

お二人にお話を伺いました。

●東国分校区支え合い推進会議とは
どんな取り組みをしているの？

東国分校区は、令和2年11月に「支え合い推進会議」を立ち上げました。東国分校区支え合い推進会議は、校区まちづくり振興会・校区社会福祉協議会・地区民生委員児童委員協議会・校区自治会連絡局・主任児童委員などの方が参加されています。新たな取り組みを始めるのではなく、「民生委員さんや校区社協のボランティアさんがこれまで活躍されていた取り組みを活用できないかと考えました」と堀江会長。

堀江会長が「一番気になっていたことは、高齢者が（情報難民）になるかもしれないということでした。」久留米市が発行している広報久留米は、令和3年4月から月2回の発行が月1回になりました。若い方たちは、自分の興味があることをネットで検索したり人との交流の中で

話しを聞いたり簡単に情報を手に入れることができますが、高齢の方たちは、今、どのような情報があるのかわからない。広報久留米のような様々な情報が載った紙媒体は、自分が興味のないものでも目に入ってきます。そこから気付きがあり、自分に興味のあることや必要なことを見つけることができます」と、堀江会長は話します。

そこで東国分校区支え合い推進会議で検討し、デジタル媒体を持つていなかったり、苦手意識があったりする高齢者の方たちが情報から取り残されないように支援する取り組みをスタートしました。高齢者、特に一人暮らしの方たちのご自宅を訪問して、テレビ番組のdボタンから久留米の情報を見ることが出来る「dボタン広報誌」の操作方法を説明していくことにしました。dボタンは、市の広報誌の内容やお知らせ、災害時には、情報が得られます。まずは、説明する側が内容や操作方法をきちんと理解するために令和3年12月に校区社会福祉協議会と共催で、スマホやインターネットを含めたdボタンの勉強会を開催。約80人のボランティアさんが集まりました。

「dボタン広報誌」については、操作方法を分かりやすく書いたチラシを作り、配ることにしました。「チラシは、テレビの近くに貼ってもらうといいなと思っています。また、わからない方が気軽に尋ねることができるように、そのチラシをラミネート加工して東国分校区コミュニティセンターにも置いてあります」と堀江会長。

本来、高齢者を訪問するボランティア

の方々は、積極的にコミュニケーションをとり、聞き取りも行います。他の校区では、買い物やゴミ出しなどの支援を行なっているところもあるようですが、そのような困りごとには、久留米市シルバー人材センターが行っている簡単な困りごとを手伝ってくれる「ワンコインサービス」（10分以内…100円、30分以内…500円）を紹介するようにしました。そのチラシは、シルバー人材センターから取り寄せ、dボタンの操作方法のチラシと一緒に配り、高齢者の方たちの個別の困りごとに対応するようにしました。コロナ禍も重なり、スムーズに動けないこともありましたが今年2月末から、本格的に動き出しています。



東国分校区支え合い推進会議が次に取り組もうとしていることは大きく2つあります。まず1つ目は「フレイル予防健康サロン」を立ち上げることです。東国分校区社会福祉協議会が各地域で活動している「いきいきサロン」。「フレイル予防健康サロン」では、サロンのリーダーや自治会長さん達に集まっていたり、外部から講師を招いて健康体操等を学んでいただく予定です。スキルの習得、そして、健康サロンを通して地域の高齢者の皆さんが元気になってくれればと思います。

● 二からの取り組みについて



● 堀江会長
平成19年から平成26年度まで、校区社会福祉協議会の会長をつとめたことをきっかけに、以来約15年、ずっと東国分のボランティアを続けています。今の時代、もっとも長く住んでいる高齢者の方々と、新たに越してきた方々や、子どもたちとの交流が、どんどん難しくなっています。子どもも大人も、そして高齢者も、校区内の皆が声をかけ合うような校区になっほしいと思っています。現在コロナ禍で中止していますが、2年前まで毎月、「ふれあい食堂（子ども食堂）」を東国分校区コミュニティセンターで行っていました。また、このコミュニティセンターは、子どもたちが学校が終わって寄り道しやすいように、小学校のすぐ隣にあります。大人になって、東国分を離れても、いつかまた帰ってきて欲しい。ふれあい

● 活動を通して思うこと

そして2つ目は子育て支援です。東国分校区社会福祉協議会を取り組んでいる子育て支援サロン「たんぽぽ教室」。現在コロナ禍で活動が制限されていますが、子育て支援情報などオンラインを活用して発信のお手伝いができればいいなと思います。と、堀江会長は笑顔で未来への展望を語られました。

食堂で食べたカレーのことを、たまにでも思い出してくれると嬉しいですね。

● 草場さん

校区の活動はすべて、思いやり。相手が喜ぶことをしてあげたいと思っています。子どもたちの登下校の際に、道に立ち、挨拶をしたり、小学校の駅伝の練習の時には交通整理のお手伝いをしています。子どもたちの笑顔は宝です。卒業してから交流がある子どもたちも多いです。地域は家族だと思っています。

● 取材を終えて

久留米市の46校区コミュニティ組織の中で女性の会長はたった3人。新たな視点を活かした活動もしていきたいと話されていたのが印象的でした。無理せず、今ある活動を活かした新たな取り組みなどで校区内の誰もが住みやすいまちを目指されています。



堀江 範子さん

草場 泰雄さん

「いつの間にかボランティア活動が日常になっています」と笑顔で話す堀江会長は、とにかく元気でパワフル。ご自宅の保護猫について「猫は大切な家族です」と猫愛を語っていただきました。草場さんの趣味は、毎日10kmのウォーキング。「ウォーキング後のビールが欠かせません。お酒を飲むためにウォーキングしているのかも(笑)」健康第一ですよ！と満面の笑みの草場さんでした。

次回のつながるスイッチ!! vol.7も引き続き各校区の取り組み—その⑤—を紹介しします。

つながるスイッチ!!はHPでもwebマガジンでも掲載中

久留米市社会福祉協議会
〒830-0027 久留米市長門石1-1-34
TEL: 0942-34-3035
FAX: 0942-34-3090
メール: heartful@heartful-volunteer.net
HP: http://www.heartful-volunteer.net

久留米市社会福祉協議会 検索

webサイト
[note—つくる、つながる、とどける。]で「つながるスイッチ!!」を検索してください!

